

令和6年度 ふくたこども園 自己評価 (自己評価シートにて 正規職員10名実施)

保育内容

【a-できている b-できているが、十分ではない c-できていない】

全体的な計画		a	b	c	全体	課題対応
1	保育所の理念、方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じた全体的な計画を編成し、計画に基づき実践している。	3	7	0	b	保育理念の理解と、実態に応じた保育計画作成への時間を十分にとり、計画に基づいた実践に努める。
環境を通して行う保育、養護と教育の一体化						
2	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	8	2	0	a	一人ひとりの状態の把握に努め、こどもの目線と目的を明確にした保育環境の整備を行う。
3	ひとり一人の子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	7	3	0	a	各保育者が自身の保育と保育指針を照らし合わせつつ、振り返りを行い、常に保育の質の向上を目指していく。
4	子どもが基本的な生活習慣を身に着けることのできる環境の整備、援助を行っている。	9	1	0	a	一人ひとりの成長発達の把握に努め、主体性を育む環境整備や援助を行う。
5	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	1	9	0	b	保育者一人ひとりの主体性への意識の向上をいかして、保育実践の部分においても、課題を明確にし改善に努める。
6	0・1・2歳児の各保育において、養護と教育が一体的に展開されるような適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	1	6	0	b	それぞれの成長発達や、生活リズム等への意識の高まりをいかした保育実践と、必要な環境整備を明確にする。
7	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	1	7	1	b	園内外の研修を通して、児童への配慮や支援、保護者との対話やケアへの専門的知識とスキルの習得に努める。
8	長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	5	4	1	a	状況に応じて、異年齢児保育の有用性をいかした保育を心がけ、家庭状況に配慮した保護者との対話やケアに努める。
健康管理						
9	子どもの健康管理を適切に行っている。	10	0	0	a	各家庭理解のもと、保護者との情報共有や連携をとり、園全体として感染対策や、健康及び衛生管理に努める。
10	健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。	6	4	0	a	プライバシーに配慮しつつ各家庭との連携やケアに努め、必要に応じて専門機関等への接続を行う。
11	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	9	1	0	a	専門機関の指示に基づき、全職員による情報共有を徹底し、人的ミスをカバーする仕組みをつくる。
食事						
12	食事を楽しむことができるよう工夫している。	4	6	0	b	食育の実践方法を園全体として明確化し、より一人ひとりに適した、楽しくおいしい食事への配慮と意識を高める。
13	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	9	1	0	a	従来のもに固執せず、新メニューや、より良い提供方法を追求しつづける。

子育て支援

家庭と緊密な関係		a	b	c	全体	課題対応
14	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	6	4	0	a	情報共有を正確に行い、家庭との連携を深め、対話等の専門性を高める。
保護者支援						
15	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	4	6	0	b	専門性や経験を活かし、状況に応じた適切な支援の向上に努める。
16	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	6	4	0	a	正確な情報共有を行い、早期発見・予防等の保護者を含めたケアに努め、専門機関と連携が直ちに取れるかたちをつくる。

保育の質の向上

保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)		a	b	c	全体	課題対応
17	主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	1	9	0	b	個々の各分野における問題意識の向上は見られるため、改善への取り組みを園全体の課題として捉え実践する。

◎まとめ 今年度は、各分野においての個々の課題や、問題意識の高まりが見られた。これらについては、改善されつつあり評価できる点であった。しかし、課題に基づいた保育実践や環境設定において、具体的な取り組みが不十分であったため、この部分は昨年度から継続して、一人ひとりの具体的な改善への取り組みの明確化を、園全体の課題として自身が変わる意識のもと、理念・目標の共通理解に基づき行うこととする。また、急速な人口減少・少子化のなか、地域に根差した子育て支援の拠点としての役割と重要性を職員全体で理解のうえ、外部との様々な連携を強化し、求められる地域の居場所づくりを行い、そのなかで地域と共に一体的な子どもの育ちへの支援を図るべく、施設・設備等のより良い活用方法を模索していきたい。